

# 東海国立大学機構

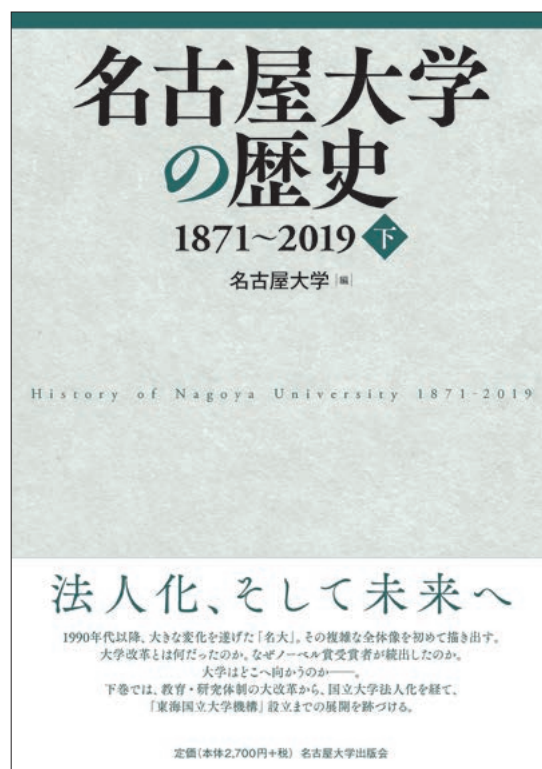
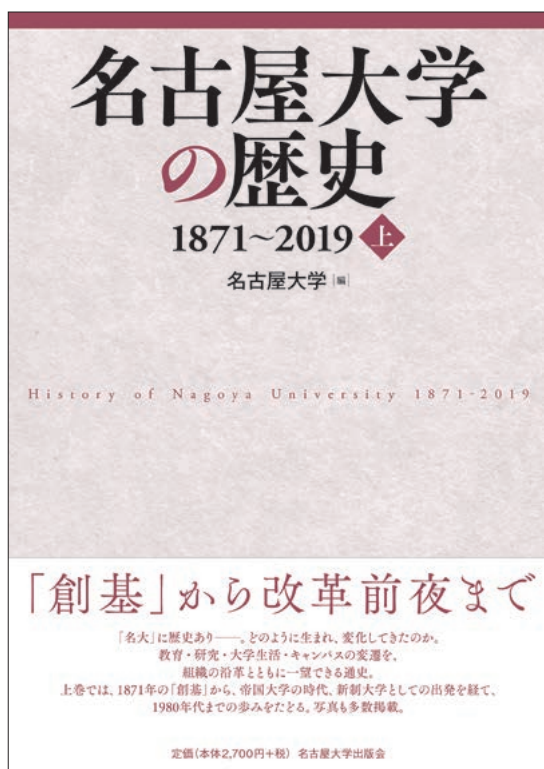
# 大学文書資料室ニュース

Tokai National Higher Education and Research System  
University Archives News

第39号 2022. 3

## 目次 Contents

『名古屋大学の歴史 1871～2019』が刊行されました（堀田慎一郎）	2
令和2年度に大学文書資料室が受け入れた資料	4
オンラインホームカミングデーで3つの企画を行いました	5
2年ぶりに総長講義が行われました	6
「ちょっと名大史」の連載がメールマガジンに移りました	7
資料室日誌（抄）	8
名大史をつむぐ資料を本室に！	10



『名古屋大学の歴史 1871～2019』上・下の表紙

# 『名古屋大学の歴史 1871～2019』が刊行されました

大学文書資料室 堀田 慎一郎

## 『名古屋大学の歴史』の刊行

このたび、令和4（2022）年3月に、名古屋大学編『名古屋大学の歴史 1871～2019』上・下（以下、本書）が名古屋大学出版会から出版されることになりました。名古屋大学（以下、名大）の全学的な年史としては、平成7（1995）年に刊行が終了した『名古屋大学五十年史』（通史一・二、部局史一・二、以下、『五十年史』）以来、27年ぶりです。

体裁は、ソフトカバーA5判、口絵のみカラー、本文は上巻260頁、下巻281頁、そのほかに年表や沿革図、各賞受賞者一覧、参考文献一覧などが付いています。定価は上・下巻それぞれ2,970円（税込み）で、一般書籍として書店等にて販売されます。

本記事では、本書の編さん・編集経緯と内容・特徴について、ごく簡単に述べたいと思います。詳しくは、『東海国立大学機構大学文書資料室紀要』第30号（令和4年3月刊行）をご覧ください。

## 100年史への取り組みと80年史編さん構想

平成26（2014）年4月、大学文書資料室（以下、資料室）が学内共同教育研究組織から名大本部直属の運営支援組織へ移行し、大学運営への貢献が一義的に求められるようになりました。

その貢献方法の1つとしてクローズアップされたのが、大学史の編さんです。資料室では、歴史資料・大学史編纂部門を置き、将来の「名古屋大学100年史」に向けての取り組みを始めました。そのなかで、大学史の意義をあらためて問い直すべく、平成26年11月にシンポジウム「今、なぜ大学史か—その意義と展望—」を開催しました。

これをきっかけに、100年史を待たずに、『五十年史』以降の大きく変貌を遂げた名大の歴史をまとめておくべきではないかということになり、「80年史」の編さん構想が浮上しました。資料室では、ワーキンググループなどで検討を重ね、『五十年史』と100年史の中間形態として、学術的な価値を担保することは前提としつつも、一般にも広く読んでいただけるものとするようになりました。例えば、1頁39字×20行と字数を少なくし、本文の上部に図（写真含む）や表の専用欄を設け、見開き2頁の少なくともどちらかの頁には図や表を入れるという形です。実際、本書はそのような体裁になっています。

## 編さん・編集体制

そして平成28（2016）年11月、総長を委員長、資料室長（名大理事）を副委員長とし、部局長会のメンバー及び資料室の両部門長を委員とする、「名古屋大学創立80周年記念史編纂委員会」が発足しました。また同時に、編纂委員会の下で編集や資料調査等の業務を行う「名古屋大学創立80周年記念史編集専門委員会」が設置されました。編集専門委員会は、資料室長を委員長、歴史資料・大学史編纂部門長（吉川卓治教授）を副委員長とし、その他若干名の委員からなっています。委員は最終的には10名で、その中の7名（うち教員6名、名誉教授1名）と松尾清一総長（終章のみ）が原稿を執筆しました。

編集室に相当する組織は特に置かれず、その役割は通常業務を行いながら資料室が果たしました。具体的には、基本資料のデータベース化やスキニング作業、執筆者の要望に応えての資料調査、原稿のチェックなど、様々な業務を行いました。

なお、編纂委員会は、のちに名大の審議機関の改編に伴い廃止され、代わって令和元（2019）年度から教育研究評議会総務分科会が重要事項を審議しました。

## 刊行への道

編さん・編集体制が定まった後は、資料室会議や編集専門委員会、執筆予定者による作業ワーキンググループで議論を重ねつつ、目次構成や執筆担当、編集方針などの検討を進めました。平成30（2018）年2月には、編纂委員会で本書の編集方針が承認されました（本書の序、前掲紀要30号に掲載）。

その後は、名古屋大学出版会にも参画していただきながら、細目次の検討を経て、原稿の執筆作業へと移行していきました。ただ、校務や研究をこなしながらの作業であり、しかも執筆者が少数精鋭であったため、スケジュールが次第に遅れていき、さらに新型コロナウイルス感染症流行の影響もあり、当初の予定から1年遅れての刊行となりました。

## 本書の概要と特徴

本書の章構成は次頁の通りです。章の下には全部で46の節があり、節の下には番号のない小見出しが並ぶという構成になっています。



〔上〕

- 第一編 名古屋帝国大学創立までと草創期  
一八七〇～一九四九
- 第1章 創基から官立大学まで  
第2章 旧制高等教育機関の系譜  
第3章 名古屋帝国大学
- 第二編 新制名古屋大学の発展 一九四九～一九八九
- 第4章 新制名古屋大学の出発  
第5章 教育・研究の発展  
第6章 名大生とキャンパス  
第7章 名古屋大学像の模索

〔下〕

- 第三編 変貌する名古屋大学 一九九〇～二〇〇三
- 第8章 教育・研究体制の大改革  
第9章 基幹的総合大学の研究  
第10章 学生生活とキャンパスの変容  
第11章 法人化への道
- 第四編 法人化後の名古屋大学 二〇〇四～二〇一九
- 第12章 国立大学法人名古屋大学、  
そして東海国立大学機構へ
- 第13章 世界屈指の大学への道  
第14章 名古屋大学から Nagoya University へ  
第15章 連携と貢献  
第16章 最近の学生生活とキャンパス
- 終章 これからの名古屋大学

上巻は、対象とする時期は『五十年史』とほぼ同じです。しかし、その記述は『五十年史』に負うところも大きいものの、単なるダイジェストではありません。構成も読みやすいよう抜本的に見直すとともに、その後の研究成果や歴史の推移を十分に踏まえたものになっています。

例えば、近年になって名大関係者のノーベル賞受賞者が相次いでいますが、その背景となった「自由闊達」の学風の形成について、名古屋帝国大学草創期の動向（3章3「敗戦後の名帝大と学風の形成」）や、戦後の先端研究の発展とその人材育成の諸相（5章4「先端研究の進展」）を通じて述べられています。

また、『五十年史』にはない、読み物としての面白さも追求し、資料室が広報誌に長年連載していた「ちょっと名大史」の内容も取り入れています。1980年代を中心に名大生の容姿の代名詞となっていた、「本山原人」についての小見出しがその例です。

そもそも、『五十年史』は通史だけでも1700頁を超える大著です。一般の方が読み通すことは難しく、その普及版という意味でも、本書の上巻の意義は大きいものと思います。

下巻は、『五十年史』のような基礎文献がなく、史料によってゼロから書き起こしたものです。

三編と四編は、2004（平成16）年4月の名大の国

立大学法人化をもって境界としています。三編はわずか14年間のことですが、大学設置基準の大綱化を契機とする、さらに法人化に向けての諸改革によって、名大は大きく変貌を遂げました。そして四編が対象とする法人化後の15年間に於いて、三編の時期に登場した変化の方向性が、さらに加速していきます。

下巻においては、8章、11章、12章によって、名大の沿革のアウトラインをたどることができます。8章では、4年一貫教育の実施（教養部の廃止）や大学院重点化などの諸改革が、11章では法人化に向けて大学理念を確立し、それに対応する部局の再編をおこなった様相が、12章では法人化による変化を明らかにしたうえで、国や経済界の要請によって更なる急ピッチの改革に向かう様子が描かれています。

また、下巻の時期は、大学の沿革と研究の動向が密接に連動するようになったことが特徴です。主に9章と13章で、研究の発展とともに、資金の調達方法、組織・研究施設のあり方、産学官連携、大学の研究支援、国際化、成果の発信などの諸要素が叙述されています。ノーベル賞の受賞についての記述もここです。

さらに下巻では、国際化の進展を描くことにも力を入れました（10章2「国際性豊かな学風の確立」、第14章）。特に四編では1章を割いています。また、上巻の7章4「外国人留学生と国際交流」からの一連の流れとしても読むこともできます。そのほか、キャンパスの変遷と学生生活にも多くの頁を充てています。

### 一〇〇年史に向けて

本書は、学術的な価値と一般読者の読みやすさの両立を目指したものです。それには成功したものと自負していますが、一方で『五十年史』のような詳細を極めた重厚な歴史叙述は犠牲にせざるを得ませんでした。これは来たるべき「名古屋大学100年史」を期したいと思います。

また、『五十年史』の際に断念した資料編に向けての準備も、これからの資料室が取り組むべき事業です。その一環として、本書を呼び水にしつつ、当初の計画にありながら果たせなかった、当事者からの聴き取りも進めていきたいと思っています。さらに名大では現在、歴史的にも重要な法人文書の電子化が進みつつあります。これらに適切に対処していくことも、100年史に向けての課題として挙げるができるでしょう。

## 資料室だより①

## ○令和2年度に大学文書資料室が受け入れた資料

大学文書資料室では、令和2（2020）年度において、下表の通り特定歴史公文書等1,758点、歴史資料等2,953点、合わせて4,711点の資料を、識別番号を付した所蔵資料として正式に受け入れ、目録情報をオンライン資料検索システムにアップロードしました。

特定歴史公文書等とは、公文書管理法に基づき、主に名古屋大学（以下、名大）の組織から移管された法人文書です。前年度より2,874点も減っていますが、前年度は以前からの未整理資料を整理して登録したものが非常に多かったため、それ以外の、令和2年度に名大の事務組織から移管されたものは703点と、逆に321点増えています。

ところで、下表の特定歴史公文書等の欄を見ると、上の方に並んでいる本部の組織名が前年度の表とかなり変わっていることが分かります。これは、令和2年4月の東海国立大学機構の設置に伴い、名大の事務組織が大きく改編されたためです。また、名大本部の事務組織の多くは、機構本部のそれを兼ねています。下表では、名大本部としての組織名を記し、（ ）にそれに対応する機構本部の組織名を入れました。令和元年度までの名大本部の組織名でいうと、上から総務部、財務部、研究協力部、企画部、教育推進部、情報推進部、施設管理部におおむね対応しています。また、附属図書館が部局から大学（機構）本部直属の運営支援組織に移行しました。

歴史資料等とは、これも公文書管理法に基づきしかるべき管理が義務づけられている、特定歴史公文書等以外の歴史資料を指します。前年度に比べると、1,432点減っています。下表における「名古屋大学（本部）」及び「名古屋大学（部局）」は、名大が単年度に作成した刊行物・印刷物で、これは毎年ほぼ一定です。年によって大きく違うのは「個人・団体」の項目で、これは名大関係者あるいは名大の関連団体からの寄贈資料です。

## 特定歴史公文書等

移管・寄贈元（令和2年度末現在の名称）	点数
管理部総務課・人事労務課（機構総務部）	37
管理部財務課（機構経営企画部財務一課）	9
研究協力部（機構研究戦略部）	43
管理部企画課（機構経営企画部経営企画課）	31
教育推進部（機構教育戦略部）	91
情報推進部（機構情報推進部）	3
管理部施設課（機構施設統括部）	0
監査室	11
Development Office	8
附属図書館事務部（機構図書館事務部）	30
文系事務部	139
理学部・理学研究科・多元数理科学研究科事務部	22
医学部・医学系研究科事務部	127
工学部・工学研究科事務部	129
農学部・生命農学研究科事務部	10
環境学研究科事務部	7
研究所事務部	5
総合保健体育科学センター事務室	1
その他（未整理資料）	1,055
合計	1,758

## 歴史資料等

提供・寄贈元	点数
名古屋大学（本部）	156
名古屋大学（部局）	525
東海国立大学機構	2
名古屋大学関係団体等	1,160
アーカイブズ機関・博物館	153
大学・研究機関等	41
個人・団体	878
学外その他	23
書店・古書店（購入）	15
合計	2,953

## 資料室だより②

### ○オンラインホームカミングデーで 3つの企画を行いました

大学文書資料室（以下、本室）は、令和3（2021）年10月16日（土）に開催された第17回名古屋大学ホームカミングデー（以下、HCD）において、①創基150周年記念企画(1)「パネル展：創基から官立大学へ」、②創基150周年記念企画(2)「ムービー：鶴舞キャンパスの発展」、③「スライドショー：写真で見るあの頃の名大」の3つの企画を実施しました。

本年度のHCDも、新型コロナウイルス感染症流行の影響で、前年度に続いて全企画をオンラインで実施することを余儀なくされたため、本室の企画もオンラインです。①と②は、今回のHCDのメインテーマ「創基150年の歩みとその先の未来へ」にちなんだものです。①では、「ちょっと名大史」（以前は広報誌『名大トピックス』、現在は『名古屋大学メールマガジンNEXT』で連載）の、創基（1871年の仮病院・仮医学校設置）から官立大学昇格（1931年の名古屋医科大学設置）までの歴史に関わる記事20回分を1つのPDFファイルにまとめて、HCDのウェブサイトで配信しました。②では、以前に本室が製作し、ウェブサイトで配信してきた鶴舞キャンパスの歴史に関するムービーを、あらためて紹介しました。

③のスライドショーは、HCDに特に招待される、卒業後50周年、40周年、30周年、20周年、10周年の卒業生それぞれの在学期間中の30枚ほどの写真等をピックアップし、5本のスライドショーにまとめたもので、恒例の企画です。もともと、対象とする期間が1年ずれると、半分くらいの写真を入れ替えなければなりません（下の写真は、今回新しく加えたもの）。このスライドショーは、本室のウェブサイトで視聴することができます。



東山キャンパス全景（1970年頃）



新築工事中の中央図書館（1980年）



情報処理端末室での授業（1989年頃）



2010年に建て替えられる前の旧南部食堂（2001年頃）



## 資料室だより③

## ○ 2年ぶりに総長講義が行われました

大学文書資料室では、平成11（1999）年度以来、全学共通科目（現在は全学教育科目）で名古屋大学の歴史の講義を開講しています。現在は、主に春学期の1年生を対象とする「名大の歴史をたどる」です。前半は総説編として、創基（明治4〔1871〕年）から現在までの歴史を通史的に、後半は各説編として、テーマを絞って詳しく解説しています。

総説編の最後には、総長がこれからの名大の展望について述べる講義があり、これは平成16（2004）年度から続けてきました。ところが令和2（2020）年度は、新型コロナウイルス感染症の流行の影響で対面講義ができず、この講義はオンデマンドのオンライン方式（資料配布）で行いました。受講生の数も、それまでは200名を上限としていましたが、学内のWi-Fi中継ポイントの容量の関係で、上限100名とされました。総長講義の回については、前年度の講義の模様を視聴させることにしました。

そして令和3年度も、この講義は引き続きオンデマンドのオンライン方式で行うことになりました。ただ、対面方式を実施するにあたっての制約が前年度より緩和されていました。そこで総長講義については、対面方式かオンラインのライブ中継方式のどちらかにすることを考え、松尾清一総長に打診したところ、対面で行うことになりました。ただ、例年はこの総長講義に限り、受講生以外の学生や名大職員の聴講を許可しているのですが、今回は見合わせました。

令和3年6月29日、マスクを付けて登壇した松尾総長は、名大の歴史から説き起こし、現在の名大の特徴やその将来像を述べたうえで、大学で学ぶべきこと、総長が学生に期待することについて熱心に語りました。この総長講義の様子は、ウェブサイト「NUOCW（名大の授業）」（<https://ocw.nagoya-u.jp/>）から、学内外問わず誰でも視聴することができるようになっています。



講義を行う松尾清一総長



総長講義を受講する学生たち

## 資料室だより④

## ○「ちょっと名大史」の連載が メールマガジンに移りました

大学文書資料室は、平成14（2002）年5月以来、名古屋大学の月刊広報誌『名大トピックス』において「ちょっと名大史」を連載してきました。名大史に関わる裏話、素朴な疑問、貴重な史料、時には名古屋大学史の根幹に関わる事項などもテーマとする、幅広い内容を扱い、学内外の好評を得てきたところです。

このたび、『名大トピックス』は、令和3（2021）年3月の第333号をもって28年の歴史に終止符を打ちました。一時は「ちょっと名大史」も同号の第226回が最終回になるかと思われましたが、同誌の終刊に伴い令和3年4月からリニューアルされた名大の公式メールマガジン『名古屋大学メールマガジンNEXT』で、隔月で連載することになりました。そこでは、体裁は『名大トピックス』時代のものを受け継ぎ、回数も第227回から始まっています。「ちょっと名大史」のバックナンバーは、大学文書資料室のウェブサイトでご覧いただけます。

名大の同窓生やOB・OGに向けて毎月末に配信される『名古屋大学メールマガジンNEXT』は、名大の総長直屬組織であるDevelopment Office（通称DO室）が編集しています。誌面は、イベントの案内や学生生活の様子、「名大で初めて〇〇した日」や「ちょっと名大史」といった読み物など多彩です。配信をご希望の方は、名古屋大学卒業生等電子名簿管理システムにご登録ください。

名古屋大学卒業生等電子名簿管理システムへの登録：<https://web-honbu04.jimu.nagoya-u.ac.jp/nual/>

『名古屋大学メールマガジンNEXT』第1号  
（名古屋大学創基150周年記念号）に掲載された「ちょっと名大史」第227回

**ちょっと名大史** 227

大学それぞれの「創基」

名大は、1871（明治4）年から教え、今年で創基150周年を迎えますが、そもそも「創基」とは別に定める「創基」とは何でしょうか。

北海道大学では、古くは1906（大正15）年に、「北海道帝国大学創基五十周年記念式典」等の記念事業を行いました。これは、1876年の札幌農学校設置から数えられたのです。ただ、多くの学校で創基という言葉が使われるようになったのは比較的近年のように思われます。日本の国立大学で、この言葉をホームページ等で積極的に打ち出しているのは、名大を含めて10大学余りです。

名大では、「名古屋大学五十年史」の編さんの際、名古屋徳和病院・仮医学校を沿革の起点としました。これも、創立70周年の2000（平成21）年から創基と呼ぶようになりました。近代西洋の学問を教える施設の組織的系譜をとったもので、北海道大学や長崎大学（長崎南行所医学校伝習所、1857年）も同じ考え方だといえます。

金沢大学では、1862年設置の加賀藩種痘所を創基としています。学校ではありませんが、近代医学を取り入れた施設という観点で系譜をとったのでしょう。そのほか、明治初期に設置された教員養成学校を創基とする大学が目につきます。筑波大学（師範学校、1872年）、愛知教育大学（愛知師範学校、1873年）、茨城大学（茨城師範学校、1874年）、大阪教育大学（大阪市教員伝習所、1874年）です。

江戸時代の私塾を創基と位置づける大学もあります。大阪大学では長州藩士土田鳳庵の山口講堂（1815年）を創基としています。

もっとも、日本の国立大学の多くは、創基という言葉は使わなくても、大学になる前の系譜を様々な観点からたどっています。大学それぞれに歴史に対する考え方があり、それぞれに「創基」があるのです。

- 1 徳和院開業の名古屋種痘所。玄關上の「奉天八月」は、1871年6月「日蘭」のこの、仮医学校は仮病院の附属施設であったと考えられている。仮病院は名古屋聖徳院跡。仮医学校は岡崎奉行所跡（いずれも現名古屋市中区丸の内）にあった。
- 2 愛知師範学校。愛知師範正門（天王崎時代）。後西院（仮医学校）は、村金助館を経て、1981年に愛知師範学校・愛知師範院となった。場所も、西本願寺境内（現在地）、1977年に天王崎（現名古屋市中区1丁目、株式会社イーエック本社跡）に移り築いた。
- 3 2003年10月、豊田議定で実行された「名古屋大学創立70周年（創基138周年）記念式典」の一環として。
- 4 岐阜県岐阜市の三門（1912年造り）。岐阜大学では、創基という言い方をしていないが、前身学校の創基という系譜を、1873年設置の前身師範学校としている。岐阜県師範学校はその前身にあたる。

名古屋大学基金のご案内 名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究業績により、今後も日本や世界に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご賛助を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

With コロナでのキャンパスライフ応援事業（基金）ご支援のお願い 名古屋大学では「新たな生活様式」を取り入れ、安心・安全に充実した学生生活を送れるよう、「With コロナ」でのキャンパスライフ応援プランを実施します。学際連携や課外活動への対策に加え、一人ひとりの悩みに寄り添う学生支援なども進めています。コロナ禍においても継続する活動を無事継続するため、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

Webでもご賛助を受け付けております。  
<https://fundraising.jp/nagoya-university>  
<http://www.nagoya-u.ac.jp>

Development Office (DO室) まで。電話052-789-4993、Eメール: [info@do.nagoya-u.ac.jp](mailto:info@do.nagoya-u.ac.jp) にご郵付いたします。

詳しくはホームページをご覧ください。  
<http://www.nagoya-u.ac.jp>

## 資料室日誌（抄） 令和3（2020）年2月～令和4（2021）年1月

- 2月10日 教育推進部国際連携課から法人文書移管。
- 2月14日 教育推進部学生交流課から法人文書移管。
- 2月16日 国立公文書館「公文書管理研修Ⅰ」を岡田智行事務補佐員が受講（オンライン）。
- 3月4日 ホームカミングデイ実行委員会（オンライン）に堀田慎一郎室員が出席（以降、4月13日、5月17日、11月12日にも出席）。
- 3月5日 医学部・医学系研究科大幸地区事務統括室から法人文書移管。
- 3月9日～10日 国立公文書館「アーカイブズ研修Ⅱ」を古賀恭代室員が受講（オンライン）。
- 3月15日 岐阜大学管理部総務課へ、法人文書ファイル廃棄簿（令和2年度末保存期間満了分）に対する意見を送付（堀田室員）。
- 3月18日 令和2年度に整理した資料等の書庫配架作業（以降、3月31日、4月8日にも作業）（古賀室員、魚住奈都子事務補佐員、東岡達也事務補佐員、林喜子事務補佐員〔4月8日は山本真己事務補佐員〕）。
- 3月19日 大学文書資料室（以下、本室）室会議開催（構成メンバー：高橋宏治室長〔理事・事務局長〕・宮川勉部門長〔総務部長〕・吉川卓治部門長〔大学院教育発達科学研究科教授〕・大桑康史法規係長〔4月以降は福地実専門員〕・堀田室員・古賀室員）（以降、4月21日、7月14日、11月24日、1月12日に開催）。
- 3月31日 『東海国立大学機構大学文書資料室紀要』第29号、『東海国立大学機構大学文書資料室ニュース』第38号を刊行。  
林事務補佐員が退職。
- 4月1日 法規係に福地実専門員（係長兼務）が着任、大桑係長が異動。
- 4月8日 山本真己事務補佐員が着任。  
医学部・医学系研究科人事労務課から法人文書移管。
- 4月13日 福地専門員が来室し、堀田室員との打ち合わせと本室の視察。
- 4月23日 内閣府公文書管理委員会デジタルWG（オンライン）を堀田室員と古賀室員が傍聴（以降、5月27日、7月8日も傍聴）。
- 5月7日 管理部施設課企画担当から法人文書移管。
- 5月24日 紀要第30号の投稿募集を告示。  
環境学研究科から法人文書移管。
- 5月28日 医学部・医学系研究科経営企画課から法人文書移管。
- 6月8日 名古屋大学創立80周年記念史（以下、80年史）編集専門委員会（第4回）を開催（オンライン）。
- 6月9日～10日 全国公文書館長会議および関連行事に堀田室員と古賀室員がオンラインで出席。
- 6月16日 理学部・理学研究科・多元数理科学研究科から法人文書移管。
- 6月17日 名古屋大学出版会と80年史原稿読み合わせ（吉川部門長、堀田室員）。
- 6月22日 教育研究評議会総務分科会（オンライン）で80年史の入稿原稿案について審議（部局持ち帰り）。
- 6月29日 全学教育科目「名大の歴史をたどる」で松尾清一総長が講義（6頁参照）。  
医学部・医学系研究科大幸地区事務統括室から法人文書移管。
- 7月5日 NHK制作会社（「ファミリーヒストリー」制作）が、堀田室員及び本室所蔵資料を取材・撮影（8月23日放送）。
- 7月12日 「令和2年度に作成された印刷物の提供について」の依頼を運営局、部局に通知（古賀室員）。
- 7月14日 管理部企画課から法人文書移管。
- 7月19日 本部別館書庫のエアコン付け替え工事。
- 7月20日 教育推進部学生支援課から法人文書移管。
- 7月26日 附属図書館情報サービス課（保健学情報係分除く）から法人文書移管。
- 7月27日 教育研究評議会総務分科会（オンライン）で80年史の入稿原稿案について審議。
- 7月27日 7月26日の内閣府公文書管理委員会で審議された「デジタル時代の公文書管理、行政文書の管理のルールの見直し、廃棄協議の方法の見直し」に関する各省庁・独法向けオンライン説明会を視聴（堀田室員、古賀室員）（7月28日、30日にも傍聴）。
- 7月28日 内閣府に「令和2年度の国立公文書館等における特定歴史公文書等の保存及び利用の状況報告」を提出（古賀室員）。



- 農学部・生命農学研究科から法人文書移管。
- 7月30日 大学文書資料室利用等規程改正が施行。  
研究所事務部から法人文書移管。
- 8月2日 運営会議で80年史の刊行について報告。
- 8月3日 情報推進部から法人文書移管。
- 8月4日 研究協力部から法人文書移管。
- 8月13、16日 夏期一斉休業につき閉室。
- 8月17日 80年史の原稿を名古屋大学出版会へ入稿。  
アイソトープ総合センターから法人文書移管。
- 8月19日 第1共同利用施設101書庫のエアコン修理  
工事。
- 8月23日～27日 国立公文書館「アーカイブズ研修Ⅰ」  
を古賀室員、魚住事務補佐員が受講（オン  
ライン）。
- 9月6日 第1共同利用施設101書庫のエアコン修理  
再工事。
- 9月7日 附属図書館東山地区図書課から法人文書移  
管（理学図書室分）。
- 9月9日 管理部総務課、教育推進部教育企画課から  
法人文書移管。
- 9月10日 NHK 報道局から番組制作のため取材と資  
料調査（堀田室員）。
- 9月15日 監査室から法人文書移管。
- 9月16日 医学部・医学系研究科総務課から法人文書  
移管。
- 9月28日 文系事務部総務課から法人文書移管。
- 10月1日 附属図書館東山地区図書課から法人文書移  
管（法学図書室分）。
- 10月7日 工学研究科・工学部総務課から法人文書移  
管。
- 10月14日 名古屋大学出版会と80年史上巻の初校につ  
いて打ち合わせ（吉川部門長・堀田室員）。
- 10月16日 ホームカミングデイ（オンライン開催）に  
て、3つの企画を実施（5頁参照）。
- 10月20日 新型コロナウイルス感染症に対する名古屋  
大学の活動指針の緩和により、本室が通常  
勤務体制に移行（ただし、必要に応じて職  
員の時差出勤は継続）。  
名古屋大学出版会から80年史下巻の初校に  
ついて打ち合わせ（吉川部門長、堀田室員）。
- 10月26日 総長と面談、80年史終章の執筆を依頼（吉  
川部門長・堀田室員・福地専門員）。
- 10月27日 秘書室から資料引き取り（古賀室員・東岡  
事務補佐員・山本事務補佐員）。
- 10月29日 恒川和久編集専門委員会委員（工学研究科  
教授）と80年史について打ち合わせ（堀田  
室員）。
- 11月2日 80年史編集専門委員会（第5回）を開催（オ  
ンライン）。
- 11月12日 80年史上巻の初校を名古屋大学出版会に返  
却（堀田室員）。
- 11月17日 管理部施設課（設備担当）から法人文書移  
管。
- 11月19日 80年史下巻の初校を名古屋大学出版会に返  
却（堀田室員）。
- 12月15日 管理部総務課による「法人文書の電子的管  
理に向けた説明会」（オンライン）に堀田室  
員と古賀室員が参加。  
総合保健体育科学センター、附属図書館情  
報管理課、管理部施設課（企画担当）から  
法人文書移管。
- 12月16日 管理部人事労務課から法人文書移管。
- 12月20日 岡崎恒子特別教授の資料について、大  
路樹生教授（博物館）、佐藤綾人特任准教授  
（ITbM）と打ち合わせ（堀田室員）。
- 12月22日 「法人文書ファイル管理簿等の更新等につ  
いて（依頼）」を機構の文書管理者に通知  
（法規係）。  
全学教育科目「名大の歴史をたどる」の総  
長講義の映像を NUOCW で公開。  
附属図書館東山地区図書課から法人文書移  
管（情報・言語合同図書室分）。
- 12月24日 教育推進部教育企画課（教養教育院事務室）  
から法人文書移管。
- 12月27日 DO 室から法人文書移管。
- 12月28日 教育研究評議会総務分科会にて、80年史  
（以下、『名古屋大学の歴史 1871～2019』）  
の再校等について持ち回り審議（部局持ち  
帰り）。
- 1月12日 室会議の際、高橋室長が本室の施設を視  
察。
- 1月14日 岡崎恒子資料を検分（堀田室員）。
- 1月25日 教育研究評議会総務分科会で『名古屋大学  
の歴史 1871～2019』の再校等についてを  
審議（オンライン）。
- 1月31日 運営会議で『名古屋大学の歴史 1871～  
2019』の再校等を審議し、この内容での刊  
行が承認される。

名古屋大学の卒業生、現役・退職後の教職員の方々へ

# 名大史をつむぐ資料を本室に！

その他、ご処分予定の資料についても、まずはご一報ください

- ☆在学時の配布物  
(学生便覧、シラバス、試験問題  
課外活動の資料…)
- ☆教育・研究活動、大学・部局運営に  
関する資料  
(各種書類、会議のメモ、備忘録、  
スクラップ記事…)
- ☆校費による印刷物・刊行物  
(冊子、パンフレット、ポスター…)
- ☆ご退職関係の記念冊子・記念  
論集・業績集… など



大学文書資料室資料保存庫の書架の様子

※ご寄贈資料は、東海国立大学機構大学文書資料室利用等規程などに基づいて、大切に保存・管理・活用させていただきます。とりわけ資料の公開につきましては、寄贈者の意向を優先しつつ、深甚の配慮をいたします。

【連絡先】 東海国立大学機構大学文書資料室（下記参照）

東海国立大学機構大学文書資料室ニュース 第39号

Tokai National Higher Education and Research System University Archives News No. 39

東海国立大学機構大学文書資料室

室長 高橋 宏治 (理事・事務局長)  
部長 吉川 卓治  
(名古屋大学史資料・編纂部門、  
教育発達科学研究科教授)  
部長 宮川 勉  
(歴史公文書部門、総務部長)  
室員 堀田 慎一郎 (特任助教・専任)  
室員 古賀 恭代  
専門員 福地 実 (総務部総務課法規係、  
係長兼務)  
事務員 岡田 智行/魚住 奈都子  
東岡 達也/山本 真己

発行日 2022年3月31日

編集発行 東海国立大学機構大学文書資料室  
名古屋市千種区不老町〒464-8601  
電話：(052) 789-2046  
FAX：(052) 788-6222  
E-mail: nua\_office@cc.nagoya-u.ac.jp

印刷 株式会社荒川印刷  
名古屋市中区千代田2-16-38